

第12回 江戸川大学簿記コンクール【 問題 】

第1問(20点)

次の取引について仕訳しなさい。ただし勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	預	金	受	取	手	形	売	掛	金	
他	店	商	品	券	前	払	金	未	収	金	前	払	地
建		物		支	払	手	形	買	掛	金	商	品	券
当	座	借	越	未	払	金		前	受	金	資	本	金
売		上		受	取	配	当	有	価	証	券	利	息
支	払	家	賃	支	払	地	代	支	払	利	息	損	益

1. 仕入先江戸川商店より注文していた商品 1,920,000 円を受け取り、代金のうち 180,000 円は注文時に支払っていた内金と相殺し、残額のうち 960,000 円は得意先駒木商店振出、当店宛の約束手形を裏書譲渡し、780,000 円は当店振出の約束手形で支払った。
2. 千葉商事株式会社社債の利札 43,200 円の支払期日が本日到来した。この社債は半年前に 2,880,000 円で購入したものである。
3. 本店が保有している茨城商店発行の商品券 150,000 円と、茨城商店の保有している本店発行の商品券 220,000 円を交換し、差額を現金で支払った。
4. 得意先柏商店から売掛金 420,000 円を同店振り出しの小切手で回収し、ただちに当座預金に預け入れた際、当座借越勘定の貸方に 70,000 円の残高があったにもかかわらず、誤って借方を全額当座預金と処理していたので、これを訂正した。なお、訂正にあたっては、取引記録のすべてを訂正する方法ではなく、記録の誤りのみを部分的に修正する方法によること。
5. 決算に際し明らかになった、仕入、支払家賃及び支払利息の要約は以下のとおりである。諸勘定の残高を損益勘定へ振り替える仕訳を行いなさい。当期における総仕入高は 1,235,000 円、戻し高は 16,000 円、値引高は 12,000 円、期首商品棚卸高は 90,000 円、期末商品棚卸高は 104,000 円であった。また、家賃の支払高は 140,000 円、決算日における前払高は 5,000 円、借入金の利息の支払高は 60,000 円、決算日における未払高は 30,000 円であった。

第2問（10点）

下記に示した分記法による総勘定元帳の記入をもとにして、答案用紙にある三分法により処理した場合の総勘定元帳の記入を完成させなさい。なお、期末における売上原価の計算は仕入勘定で行うものとする。

【 総 勘 定 元 帳 (分記法) 】										
商					品					
12/1	前	期	繰	越	2,400	12/7	売	掛	金	1,600
5	買	掛	金	1,600	22	売	掛	金	4,800	
21	買	掛	金	3,200	31	次	期	繰	越	800
7,200					7,200					
商 品 売 買 益										
12/31	損		益	1,600	12/7	売	掛	金	400	
					22	売	掛	金	1,200	
1,600					1,600					

第3問（15点）

6月中の商品売買取引の記録は、以下の仕入帳と売上帳のとおりである。これらの記録により、【設問】に答えなさい。なお、A商品の前月繰越高は20,000円（20個 @1,000円）、B商品の前月繰越高は1,000円（5個 @200円）であり、払出単価の計算方法は、A商品は先入先出法、B商品は移動平均法を採用している。

仕 入 帳

平成 29 年		摘 要				金 額
6	8	東京商店	A商品	30個	@1,200円	
			B商品	15個	@ 240円	39,600
	23	群馬商店	A商品	15個	@1,360円	
			B商品	10個	@ 200円	22,400

売 上 帳

平成 29 年		摘 要				金 額
6	15	埼玉商店	A商品	25個	@1,500円	37,500
	19	栃木商店	B商品	10個	@ 300円	3,000

【 設 問 】

- (1) A商品およびB商品の6月末商品棚卸高を求めなさい。
- (2) 平成29年6月の売上高、売上原価および売上総利益を求めなさい。

第4問（5点）

次の資料を参考にして、①期首資本金、②期末繰越商品、③売上原価、④売上総利益および⑤当期純利益を求めなさい。

【資料1】資産・負債・純資産の状況

勘定科目	期首	期末
現金	360,000円	518,000円
売掛金	1,258,000円	1,100,000円
繰越商品	782,000円	②
借入金	748,000円	698,000円
買掛金	852,000円	902,000円
資本金	①	885,000円

【資料2】売上・仕入の状況

売上高	2,373,000円
仕入高	1,648,000円

第5問（10点）

次の文章のうち、正しいものには「○」誤っているものには「×」をつけなさい。なお、全て「○」もしくは「×」と回答した場合には、全問不正解とする。

① 簿記とは、企業が行う経済活動を記録する仕組みのことをいい、企業の財産管理に役立つとともに、利害関係者の意思決定に役立つものである。
② 貸倒引当金とは、債権に貸倒れになる危険性がある場合、決算にあたって過去の実績率などにもとづいてその貸倒れの予測額を見積もったものである。
③ 手形を持っている人が支払期日以前にその手形を銀行などの金融機関で換金することを手形の裏書という。
④ 税金には簿記上、費用となる税金と費用にならない税金があるが、国が課す税金である所得税、印紙税は費用にならない税金である。
⑤ 商品売買の処理において、仕入勘定、売上勘定および繰越商品勘定の3つの勘定を用いる方法を分記法という。
⑥ 決算とは、日常の取引記録を一定期間ごとに整理し、帳簿を締め切るとともに、財務諸表を作成する手続きをいう。
⑦ 有形固定資産について、決算時に使用または時の経過に伴う当期中の価値の減少分を当期の費用として計上する手続きを減価償却という。
⑧ 売上の際に運賃などを支払った場合、それが買い手の負担するものであれば発送費として処理し、売り手の負担するものであれば売掛金に含めて処理する。
⑨ 費用の繰延べとは、決算日現在においてすでに用役の提供を受けたが、その対価を支払っていない場合に必要となる手続きである。
⑩ 百貨店などが、自店の商品券を発行したときには商品券勘定、商品の売却時に他店が発行した商品券を代金として受け取った場合には他店商品券勘定で処理する。

第6問(20点)

次の【Ⅰ：決算日に判明した未記帳事項】および【決算整理事項】について仕訳をしなさい。ただし、勘定科目は、【答案用紙】第7問の精算表で記載されているものを使用すること。なお、会計期間は平成28年4月1日から平成29年3月31日までの1年間である。

【Ⅰ：決算日に判明した未記帳事項】

1. 仮受金は、決算直前に得意先より受け入れた内容不明の入金であったが、その全額が売掛金の回収であることが判明した。
2. 所持していた得意先振出の約束手形 50,000 円が決算日までに満期となり、決算日までに当座預金口座に入金済みであったが未記帳であった。
3. かねて売上代金として当店振出の小切手 10,000 円を受け取った際に、誤って現金の増加として処理していたことが判明したので訂正する。

【Ⅱ：決算整理事項】

1. 売上債権の期末残高に対して2%の貸倒れを見積もる。貸倒引当金の設定は差額補充法による。
2. 期末商品の棚卸高は48,000円である。売上原価は仕入の行で算定する。
3. 消耗品の未使用額は3,000円である。
4. 備品について定額法により減価償却を行う。耐用年数は6年、残存価額はゼロとする。
5. 支払家賃は店舗建物の賃借によるものであり、当期9月1日に向こう1年分として支払った金額である。
6. 借入金のうち200,000円は当期1月1日に借入期間1年間、年利率2%で借り入れたものである。この借入金に対する利息は、返済期日に元金とともに一括して支払うことになっている。なお、利息の計算は月割りによる。
7. 手数料の未収分3,000円を計上する。

第7問(20点)

第6問の期末整理事項等の仕訳にもとづいて、答案用紙の精算表を完成しなさい。なお、資本金勘定および仕入勘定の推定にあたり、決算整理前における勘定記入の状況は次のとおりであった。

資 本 金						
7/8	現	金	20,000	4/1	前 期 繰 越	1,000,000
9/1	仕	入	80,000			
2/5	現	金	100,000			
仕 入						
6/8	現	金	35,000	9/1	資 本 金	80,000
8/1	買	掛	金			
9/9	買	掛	金			
3/7	現	金	114,000			